

## 【4 ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築】

目指す社会像

個々に応じた教育、働く機会のある社会

解決すべき  
社会課題

- すべての人々へ包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する（SDGsの4）
- 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する（SDGsの16）
- 精神面も含めた質的な豊かさの実現（基本計画）

次期SIP  
課題候補

【4 ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築】  
ポストコロナ社会に向けて、オンラインでも対面と変わらない円滑なコミュニケーションができ、地方に住んでいても大都市と変わらない教育や仕事の機会が提供され、さらに、多様な学び方、働き方が可能な社会を実現するためのプラットフォームを構築する

必要と考えられる  
基盤技術、共通  
システム、ルール  
などの例

＜事例＞ ※次期SIPターゲット領域有識者検討会議の有識者や委託調査等で得られた事例。RFIで提案いただく研究開発テーマはこれらに限られないが、この程度の粒度での提案を期待。

- アバターによる仕事や学び
- 遠隔教育の効率性向上
- デジタル空間での教育機会の提供
- 公教育と民間教育のデータ連携基盤
- 生涯にわたる学習履歴活用
- STEAM教育のプラットフォーム構築
- 探究的な学びの成果などの評価手法の開発
- 社会人になってからの再教育・訓練
- 教育、訓練、能力開発における新たな技術・サービス導入に係る制度
- リモートワークの生産性向上
- 最適な分業を構築する高度なソフトウェア
- センシングによる組織パフォーマンス向上
- 多様な人材と仕事のダイナミックなマッチング
- 新たな労働関係に係る制度
- 労働環境のボーダレス化による国際協調
- 個人の精神状態の自動把握
- GDPに変わる豊かさの指標

### 参考となる施策 関連文献等

- **「European Education Area」(EC)**
  - 2025年までに達成予定の欧州教育圏 (EEA) のビジョンを設定。欧州の全ての人にEUからの教育・研修の恩恵を享受できるように加盟国からの投資と協力を求める新規のイニシアチブを提案。
- **「‘The Great Relearning’ revolution」(WEF、DAVOS AGENDA2022)**
  - 2022年ダボス会議アジェンダとして、世界は大きな学び直し革命の転換点にあり、大量の退職者傾向の一方再訓練で新たなスキルの取得など学びを選択する人が増加。人材戦略には継続的学習の観点を取り入れることが必要。
- **「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和3年12月24日閣議決定)**
  - デジタル社会の形成のために政府が迅速かつ重点的に実施すべき施策等を定め、司令塔としてのデジタル庁や各省庁の取組、工程表、スケジュールを明示。デジタル社会の実現のための6つの方針のうち、医療・教育・防災・こども等の準公共分野のデジタル化、デジタル人材の育成・確保を明らかにしている。
- **「GIGAスクール構想」(令和元年、文部科学省)**
  - 1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとともに、並行してクラウド活用推進、ICT機器の整備調達体制の構築、利活用優良事例の普及、利活用のPDCAサイクル徹底等を進めることで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現。
- **「未来の教室プロジェクト」(平成30年、経済産業省)**
  - 学びのSTEAM化、学びの自立化・個別最適化、新しい学習基盤づくりに焦点を当て、特に「初等中等教育」と「リカレント教育」の改革に的を当て、教育イノベーションを推進する実証プロジェクトとしてスタート。世代を通じて全体を貫く改革コンセプトは「学びのSTEAM化」と「学びの個別最適化」。
- **教育データ利活用ロードマップ (デジタル庁)**
  - 教育のデジタル化のミッションを「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」と設定し、教育データの流通・蓄積の全体設計 (アーキテクチャ (イメージ)) を提示。
  - その上で、「ルール」「利活用環境」「連携基盤 (ツール)」「データ標準」「インフラ」それぞれに関連する論点や、必要な措置について整理。
- **「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ (素案)」(令和4年2月9日、内閣府)**
  - 「一人ひとりの多様な幸せ(well-being)」を実現できる社会を目指し、①子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化、②探究・STEAM教育を社会全体で支えるエコシステムの確立、③文理分断からの脱却・理数系の学びに関するジェンダーギャップの解消について、今後5年程度かけて各府省庁が取り組むべき施策、ロードマップを明示。
  - その中で、「探究的な学びの成果などを測るための新たな評価手法の開発」や「最先端テクノロジーを駆使した地方における新たな学び方のモデルを創出」が今後必要な施策として明記。

## 2. 教育データ利活用の目指すべき姿 (to be)

